



てのあと



人身売買のない社会を

理事 澤 翔子

11歳の時に家族でタイ旅行に行きました。「子どもが連れ去られて臓器を売られることがあるから離れちゃダメだよ」。そう言った両親の言葉は今でも鮮明に覚えています。人身売買があるということを知った時でした。

それから10年程経ち、私は大学で人身売買に関する講義を受けていました。日本は実は人身売買の受入・供給・通過国となっているのです。遠い国のことではないのです。

世界での人身売買の被害者数は2,100万人にのぼります。授業で学んだことが、今、私がてのひらの活動に関わった直接的なきっかけだと思います。卒業論文は「在日する外国籍女性の支援活動」というテーマを選び、インタビューをしたのが弊会代表理事の百瀬でした。そこから、何か私に出来ることがあれば・・・と始めたボランティア、セミナー等を経て、今に至ります。

「人身売買、DVを経験した外国籍女性を対象とした活動」というニッチな分野に、なぜ殊更関わりたいと思ったのか、それは私自身の育った環境にも関係しています。10年以上を海外で過ごしてきた中で、人種差別や外国人として暮らすことの困難さや、辛いことを経験した時期もありました。そういったことから、人身売買に限らず、移民や、国籍、アイデンティティ等、そういうことにとっても興味を持つようになりました。

普段は都内で会社員として生活しているので、活動は土日が中心です。そんな中でも、忘れてはいけないと思っていることがあります。まず、自分たちの活動が本当に、サポートしたい人たちのためになっているか？が常に立ち返るべきところであると思います。また、理想の社会のビジョンを持ち続けることです。私たちがてのひらは人身売買のない社会をビジョンに掲げています。私個人の解釈を加えると、それは言い換えるならば、「人々が平等に選択する機会を与えられること」だと考えています。人身売買の温床となる、貧困や地域・国の文化、社会システムなど、その問題は広く根深く、ここで語りきれない部分があります。ですが、これからも、想いを絶やすことなく、当事者の人々へ、そして社会へ向けた息の長い活動がしたいと思います。

人身売買と強制労働～ILO レポートを読んで

代表理事 百瀬 圭吾

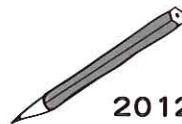
今年6月1日、世界の強制労働被害者が2100万人に上ることがILO（国際労働機関）から発表された。世界全体の総人口のうち1000人に3人がその状況にあることになる。

このレポートではどのようなところで強制労働が起こっているのかについても触れている。1870万人が企業や個人によって強制労働させられ、その内450万人が性的搾取を受けている。また、1420万人が農業や産業、建設現場や家事労働等のなかで搾取的な労働や本人の意志に反して働かされていることが報告されている。加えて、全体の4分の1にあたる550万人は18歳未満の子どもたちである。そして国内で強制労働の被害に遭った人の多くが、国際的な移動を伴った強制労働も併せて経験したことがある、とも伝えている。

ILO代表はこうした現状から引き続き取り組みを続けなければならないとしながらも、2005年に行われた前回の調査以来、延べ7年の間に強制労働の犯罪化が随分と進み、法整備がなされてきたことを評価している。しかし、年々世界全体で不況が続くなかで、安全が担保されて働くことができることが、けしてあたりまえではないことになりつつあることにも強い懸念を示している。

日本では人身取引対策行動計画を政府が掲げ、人身売買への取り組みの基準としているが、この計画の中に未だ強制労働を含む労働搾取を目的とした人身売買への対策が盛り込まれていない。その結果、対策は遅れ、研修生問題等も年々深刻化してきている。

搾取的な労働が移住労働者のような弱い立場におかれやすい人々に影響を与えている。私たちは、一人の市民として同じ人間として、この問題に心を傾けて、誰にも生きていく上で欠かせない「働く」ことが守られるために、関心を示し続けねばならないのではないだろうか。



シェルターでの日本語教室のこれまでを振り返って

H. S. (女性の家 HELP)

「今日は日本語教室がありますよ。もしよかったら、出てみませんか？」そうやって声をかける度に、女性の家HELP（配偶者からの暴力被害女性や子どもたちを受け入れるシェルター）を利用する女性たちの顔はぱっと輝いた。長いこと我慢してきた夫の暴力から逃れ、でもこれからどんな新しい生活が待っているのかわからない、そんな不安だらけの毎日を通り越す彼女達にとって、「日本語を習う」ことは「明日の私の生活へ投資すること」に直結するのだ。「あ〜、楽しかった！」日本語教室後の彼女達の顔は喜びに満ちている。「これ、宿題…」と少し憂鬱そうにしながらも、どこか楽しそう。自分の意思で教室参加を決め、「生徒」というはっきりとした役割をもって自分と子どもたちのために時間を使う。それは、夫との生活では、できなかったこと。最初は戸惑いや気おくれがあるが、だんだん学ぶことの楽しさに目覚めていく。一生懸命教えてくれる日本語の先生に励まされること、できるようになっていくことの喜びに目覚めていく。シェルターで開催されるてのひらの日本語教室を通して、そんな女性たちの姿に何度も出会えたことは、シェルタースタッフとしてこの上ない幸せだと思う。

シェルターでの滞在期間は通常とても短い。だが、退所した後も、てのひらの日本語教室に魅せられ、HELPに通い続ける女性たちもいた。教室の中では、彼女達の抱える困難も語られ、入所中からそれらを知っていて下さる日本語の先生方との継続的な関係と、工夫に満ちた教材選びは、実用的な日本語能力習得のみならず、ともすれば動揺しがちな彼女達の退所後の生活を貫く大切な錨（いかり）として大きな役割を果たしていた。

良いことづくめのシェルターでの日本語教室は、今回場所を移して継続の方向となる。「より近くより安全に」を実現していたHELP内日本語教室がなくなるのはとても残念だが、今後その素晴らしさが必要とする多くの方々に分かち合われることを心から願っている。



コラム バングラの風 杉本文恵

今号より、「バングラの風」と題し、コラムを書かせていただくことになりました。学生時代よりてのひらにかかわり、卒業後は10カ月ほど有給スタッフとして活動させていただいた経験もあります。現在は青年海外協力隊員として、バングラデシュに滞在しています。村落開発普及員という職種で、私は主に農村開発を行っています。

私が活動しているところは、バングラデシュ コミラ県と言って、「コミラモデル」と呼ばれる、農村開発では多くの業績を残した「BAR D」という機関があり、この分野では大変有名なところですよ。学生時代より農村開発に関心があった私にとって、まさにぴったりのフィールドです。このような場で活動できることを、幸運に思います。

6月末にバングラデシュへ来てから、文字通り「あっ！」という間に3カ月がたちました。日本は四季ですが、バングラデシュには六季あります。来た当初は雨季でしたが現在は日本でいうところの秋、冬に向かって朝夕は涼しくなりつつあります。

コラムでは、バングラデシュで起こっていること、経験していること、バングラデシュについてなどなど、つれづれなるままにつづっていきこうと思います。「こんなことが聞きたい・知りたい」というリクエストがあれば、ぜひお伝えください。

入会案内とご寄付のお願い

てのひらの設立趣旨に賛同し、活動を支えて下さる方を募集しています。ご寄付も大歓迎です。

一般会員	5,000円	団体会員	10,000円
賛助会員	一口 3,000円	団体賛助会員	一口 5,000円

● 郵便振替口座 00190-4-280388
 (他行からは 当座 019・口座番号 当座 0280388)
 口座名義：てのひら～人身売買に立ち向かう会

● みずほ銀行 大森支店 普通 1394224
 口座名義：特定非営利活動法人てのひら・人身売買に立ち向かう会

事務局通信

★ 2012年前期をもって、シェルター内の日本語読み書き教室を休止します。

2012年前期、入門クラスにおいては、継続的な参加者を募るむずかしさなどが重なり、コーディネーターや講師、シェルターの担当者側もいろいろ努力や工夫を重ねましたが、状況を総合的に判断した結果、2012年7月をもってクラスを休止することといたしました。今後、スポンサー等とも相談をしながら、今年11月からは2011年度から始めているシェルター等を退所した方々のための教室にこのクラスの機能も集約し、一本化して運営していく予定であります。

今後もボランティアとして関わって下さる講師や子どもサポーターのみなさんと協力しながら、日本のなかで暮らしながら日本語を学ぶ機会が得られない外国籍女性に、私たちなりのサポートを模索しつつ提供し続けていきたいです。

★ メールマガジン制作を担当下さるボランティアの方が仲間入りしました！

ホームページ等でてのひらの活動を知り、志願して応募くださったボランティアの野村さんが、今年7月からてのひらに仲間入りしました。普段は金融機関にお勤めの野村さんですが、学生時代から人身売買などの社会的課題に関心を持ち、こうした活動に参加したいと想っていたそうです。これから一緒に活動してゆく中で、どんどん私たちを刺激して下さることを期待しています。

お問い合わせ

〒143-0016
 東京都大田区大森北 1-30-1 三喜屋ビル 2階
 TEL&FAX 050-1445-6947

E-mail ▶ info@tenohira-trafficking.org
 HP ▶▶▶ http://www.think-trafficking-project.com/